

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

9/10

アカデミック英語 No.1

旧帝大の英語長文を"論理構造"で読む —— 段落の役割を見抜く

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。英語長文の問題で「文を順番に訳す」答案と「段落の役割を見抜いてから読む」答案の評価の差を、採点者として繰り返し目にしてきました。その経験が、この講座の設計に直接反映されています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 旧帝大・難関大の英語長文読解問題

東京大学・京都大学・一橋大学の英語では、段落の役割（主張・根拠・例示・反論・結論）を見抜かないと、内容説明・要約問題での外れな答案になる。段落構造を先に把握できる受験生は、問いに対して的確に答えられる。

② 内容説明・要約問題

旧帝大の英語では、「〇〇とはどういうことか」「本文の論旨を説明せよ」という問題が頻出である。論理構造を先に把握している受験生は、答案の骨格を最初から決めて書くことができる。

③ 医学部・理工系推薦の英語面接

「この文章の著者は何を主張しているか」という問いは、推薦入試の英語面接で定番である。段落構造から主張と根拠を分離できる受験生は、面接官に英語読解力の深さが伝わる。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学 文科・理科	英語長文の内容説明・論旨把握問題	段落構造の把握が的確な答案の基盤になる
京都大学 全学部	長文の要約・内容説明問題	論理構造の先取りが答案の骨格を強化する
大阪大学・東北大学	段落の役割を問う設問	段落機能の理解が設問への正確な対応を生む
推薦・総合型選抜（全般）	「著者の主張は何か」型の英語面接	採点者（大学教員）に英語の構造的読解力が伝わる

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

英語長文を「先頭から順番に訳す」アプローチで読んでいる受験生は、長文になると全体像が見えなくなる。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）段落の役割（主張・根拠・例示・反論）を見た瞬間に判断できる、（2）要約・内容説明の答案の骨格を最初から決めて書ける、（3）英語面接で著者の主張と根拠を分離して語れる、という変化が起きる。

何十年も英語の答案を採点してきた清光学院の講師陣は、英語長文問題で「逐語訳の答案」と「論理構造から組み立てた答案」の評価の差がいかに大きいかを採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。